

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1192300018		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホームわこうの丘		
所在地	埼玉県和光市新倉3-7-7		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和4年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームでは、家庭的な雰囲気を目指す観点から食卓はなるべく、わこうの丘の畑で育てた野菜や近隣農家から購入した食材として地産地消を心がけていますが、調理におきましても利用者様が可能な限り参加して楽しい食事作りを心がけています。
また、居宅空間におきましては、国の基準7.43㎡(4.5畳)を超えて13.24㎡(8畳)で各室トイレ、更には、スプリンクラーを設置して、安心・安全な生活を提供しております。秋に行う芋煮会では、地域の方々に多く参加して頂き、毎年開催しています。利用者様が日々の生活を楽しんで頂けるように月ごとに行事を行ったり、外部のボランティアさんに出し物をして貰ったりしています。（近年コロナウイルス感染症拡大の為、中止しています。収束し次第再開予定。）

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「その人がその人らしく生活出来るようにその人に合わせた丁寧なケアをお届けします」の理念のもと、力の低下の見られる利用者についても、一人ひとりに対し優しくきめ細かなケアが提供され、日々、安心して気分良く過ごされるよう支援に取り組まれている。
・運営推進会議については、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や入居者の状況を書面にまとめ、会議メンバーに配布し意見等を伺い、会議の代替えとされている。会議メンバーとは書面手交の際や電話連絡時などで意見交換が行われ、事業所運営やサービスの向上に活かされている。
・目標達成計画の達成状況については、前年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、重度化や終末期対策として、法人研修や看護師による利用者個々の状態に合わせた対処方法の指導が為されるなど、取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員全員で理念を共有して支援・援助・介助を心にかけている。	「その人がその人らしく生活出来るようにその人に合わせた丁寧なケアをお届けします」の理念のもと、利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、ゆっくりのんびり楽しく過ごされるよう利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	未だコロナ感染症が収まらない為前半は外部との接触は難しかったが様子を見ながら徐々に交流を始めている。	最近では自粛されているが、地域資源の活用のほか、地域住民やボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	和光市市内の団体「井戸端介護所」を立ち上げたがコロナ感染症のため前半は活動自身が難しかったが後半は様子を見ながら活動を再開し始めている。現包括等も参加いただき進行中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症の為今年度も集まっていた会議は行っていない。様子を見て再開予定。議事録等は市役所・包括・家族代表・民生委員メンバーには開催月に書類制作し報告している。	コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見をいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染症の為市指導の会議等も前半は行えていなかったが最近徐々に再会できている。リモート等の会議も増えてきたので昨年度よりは協力関係が出来ている。	行政の担当とは密に連携を図り、事業所の取り組み状況を説明し、相談や情報の共有等が行われている。また、「うるかむ事業」の受託など、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極力拘束はせず工夫し支援・介助を行っているがどうしても必要な場合は家族等に相談し許可をいただき拘束がなくなるように月一回の委員会等で会議・検討に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会が定期的にかかれていている。その機会に、拘束に関する学びの時間を持ち、身体拘束の内容とその弊害が確認され、言葉での拘束を含め、行動抑制をしない介護を実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修をリモートにより適宜開催している。又委員会・ミーティング等で議論し虐待が起らないように注意し防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会・ミーティング等で議論はしているが、現状は活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明し、質疑応答により取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染症の為、家族等の面談は難しかったが電話・手紙・オンライン等で連絡により家族等の意見・情報を集め、運営等に反映させている。	利用者とは日々の関わりの中で、家族とは面会時や電話連絡の際に、意見・要望を聴き取り、日々の運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体会議(奇数月開催)等、各事業所の意見要望を聞く機会を設け、反映指せている。	定例会議や個別面談時などで意見・提案を聴きとられている。また、発言し易い職場環境がつけられ、利用者の食事づくりや個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティング・前期・後期の個人面談を実施し意見・要望を聞く機会に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜自己評価を行い、それに基に面談等でケアの実施・実際の力量を見極め職員を育てる取り組みを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和光市・近隣の地域密着サービス事業者等で団体を立ち上げ適宜会議を行い情報を共有し連携し取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人・家族の要望を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り本人・家族との時間を設け、可能な限り要望に沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り本人・家族に提案・相談し、より良い支援・援助・介助ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人個人のできる範囲で支援・援助・介助を提供している。又役割を持って生活できるように努めているが、人によっては出来ていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が来所した際に、日々の生活状況等の説明をしている。又定期的に手紙等で様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等が来所された際には必要に応じて職員が間に入り、会話等の支援・援助・介助を努めている。	コロナ禍での自粛と限定されるが、友人・知人の面会、併設の関連事業所を利用する馴染の方達と歓談されるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いを築けるように会話等の支援・援助・介助を努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのり、可能な限り支援・援助・援助できるようにつとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じて相談にのり、可能な限り支援・援助・介助できるようにつとめている。	利用者とのコミュニケーションを大切に、声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。意思疎通の難しい利用者についても、日頃の関わりの中で、表情や仕草などから汲み取られ、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の意見をじっくり聞き、希望等を把握するように努め検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見をじっくり聞き、希望等を把握するように努め検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングの実施により、課題を見つけ話し合いアイデアをだしプランに反映し支援・援助・介助に努めている。	利用者や家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示を含め、関係する職員で意見交換を行ない、その人らしさを大切にした介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し記録を付けている。職員間のコミュニケーションを強化し介護計画等の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	困難事例等の場合管理者・介護支援専門員と連携・議論し可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人個人をすべて把握できていないが、必要におじて支援・援助・介助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との連携を図り、受診等が必要な場合にすぐに対応できるように支援・援助・介助している。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をさせていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としながら、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なえるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有し相談しながら適切な看護を受けられるように支援・援助・介助している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師・介護支援専門員・管理者を中心に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意見を尊重し、どのように支援・援助・介助に取り組んで行くかを看護師・スタッフで議論し情報を共有しチームケアにて支援するように努めている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や看取り支援に取り組まれている。	重度化や終末期の受け入れ体制整備には十分取り組まれています。今後も組織対応力の向上に向けた継続的な取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施していないが、緊急時対応マニュアル等を整備している。適宜看護師による研修の場を確保指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している、地域の方々にも協力して頂き訓練を年に2回以上は実施している。	定期訓練では火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれ、利用者個々の力に合わせた避難方法を検討されるなど、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。高齢の利用者を預かる事業所として、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活ケア・支援・援助・介助に当たる際の、言葉使い・態度等を注意し対応している。	「やさしく丁寧な言葉を常に心がけましょう」というモットーのもと、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身を尊重し声かけしできる限り自己決定ができるように支援・援助・介助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者自身の希望をできる限りゆっくり聞き可能な限りできるように支援・援助・介助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人が日常生活の整容・季節に合った服装等の声かけをし支援・援助・介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人で食事の盛り付け・片付け・テーブルふき等を一緒にできるように支援・援助・介助している。	利用者の能力に合わせ、食事の盛り付けや後片付けなど職員と共に行っている。食事会では餃子パーティーや鉄板焼のほか、おやつ作りではどら焼きや羊羹を楽しまれるなど、食の楽しみを大切に支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の一日の食事・水分量等を把握し職員間で共有し必要量を摂取できるように支援・援助・介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人の定期的な歯科検診の執行・毎食後の口腔ケアをし清潔を保てるように支援・援助・介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人に定時・定期的な声かけによる誘導し、排泄パターンを把握・共有し支援・援助・介助している。	利用者一人ひとりの残存機能や排泄パターン・習慣を把握して、事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師指示の基 個人個人の食事形態・水分量等を把握し・共有し支援・援助・介助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人個人の希望を尊重しスタッフ間で情報を共有し体調状態を考慮し週2回の入浴を支援・援助・介助している。	週2回の入浴を基本とし、利用者個々の残存機能に合わせて、一部清拭やシャワー浴になるが、利用者の希望に沿った支援をされている。職員複数で介助されるなど、安全対策が取られているほか、菖蒲や柚子の季節湯など楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人のサイクル・体調や状況を見極めでの声かけ等、支援・援助・介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の状況をみて必要であれば支援をしている。急変時等の服薬は往診医・看護師の指示のもと支援・援助・介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人が楽しく過ごせるように情報を聞き取りし情報を共有し、できる限り要望をかなえられるように支援・援助・介助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人個人の体調・状態をみて要望を聞きとり、スタッフと相談し散歩・ドライブ等の支援・援助・介助している。	コロナ禍の中、事業所外への外出は自粛されているが、敷地内で散歩されたり、テラスでの日光浴のほか、お花見や畑仕事など、外気に触れる機会を多く持つよう支援をされている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人は、ほぼお金は所持していない為取り組みは現状行っていない。場合により 施設側で立て替え日常生活品等の購入はする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人個人が希望しできる限りは支援・援助・介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内・施設内の同線の確保、明るく整理・整頓された空間の維持・確保できるように支援・援助・介助している。	居間はキッチン併設のリビングダイニング構造で窓からは庭の紅葉する樹木が見え、陽ざしもあふれる快適な空間となっており、テレビを観たり、お茶をするなど、利用者が気持ち良く、ゆっくりのんびり過ごせる設えになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的(季節ごと)なフロアの模様替え・個人個人の希望の座席の移動の支援・援助・介助している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は本人使い慣れたものを使用して頂くようにしている。日常生活の変化に合わせて安全・安心に過ごせるように支援・援助・介助している。	馴染みのベッド、家族の写真やお位牌などが持ち込まれ、利用者が気分良く、落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、掃除、換気や消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印・声かけとうによる見守りによる支援・援助・介助している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム わこうの丘

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 4 月 27 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期の受入れ体制は整いつつあるが職員のさらなる知識向上を目指す。	新スタッフ(外国人)を含めてさらなる知識向上の為に内部・外部研修を継続し行っていく。	スタッフ全員が交代で研修に参加できる体制を維持し随時情報を現場に落とし情報を共有し事業所全体で知識向上につなげていく。	12ヶ月
2	35	定期的な施設避難訓練は出来ているが近隣住民参加の訓練がなかなか実施できていない。	地域住民と協力して定期的に訓練が実施できるようにする。	前もって予定を組み近隣住民がなるべく参加していただくように呼び掛けていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。